

平成27年度第3回野菜需給協議会の概要

独立行政法人農畜産業振興機構

生産者、流通業者、消費者等野菜にかかわる関係者が一堂に会する平成27年度第3回野菜需給協議会が開催され（3月17日（木）10:00～12:00、（独）農畜産業振興機構会議室）、**「平成28年産春野菜の需給・価格の見通し」**等を確認しました。概要については下記のとおりです。

記

1 平成28年産春野菜の需給・価格の見通しについて

- 野菜需給・価格情報委員会（平成28年3月8日開催）において、とりまとめられた「平成28年産春野菜の需給・価格の見通し」について説明があり、その後、質疑が行われた（見通しの詳細については、別紙のとおり）。

【価格見通しのポイント】

- **春キャベツ**については、5月は、降雨等の影響を受け入荷減により価格が高騰した前年を下回り、4月及び6月は干ばつ等の影響で平年に比べ高かった前年並みの見込み。
- **春だいこん**は、主産地において、4月及び5月は天候に恵まれ潤沢な出荷が見込まれることから、降雨等の影響を受け入荷減により高かった前年を下回る見込み。6月は出荷の終盤を迎える産地があるものの、順調な出荷が見込まれる産地もあることから前年並みの見込み。
- **たまねぎ**は、主産地において、概ね順調な出荷が見込まれ、前年が不作で入荷量が少なく価格が高騰したことから期間を通して下回る見込み。
- **春夏にんじん**は、主産地において、4月は作付面積の減少などもあり前年を上回るものの、5月及び6月は好天により順調な入荷が見込まれ、天候不順の影響を受け小ぶりで価格が高騰した前年を下回る見込み。
- **春はくさい**は、作付面積が増加した産地に加え、前進出荷により順調な入荷が見込まれる産地もあることから、期間を通して高かった前年を下回る見込み。
- **春レタス**は、4月は一時的に高騰した前年を下回り、5月は平年に比べ高かった前年並みの見込み。期間を通して平年を上回る見込み。

2 野菜の消費拡大活動等について

- 主婦連合会、全国農業協同組合連合会及び農林水産省より、野菜の消費拡大の取組みについて説明があった。
- 協議会の取組として、野菜のことをもっと知ってもらうために、「やさいの日」（8月31日）に向けて「野菜シンポジウム」を開催することが了承された。
- 平成28年2月12日（金）に神奈川県三浦市で開催された、「平成27年度現地協議会」の開催概要についての報告があった。

3 その他

会員から以下のような発言があった。

- 野菜の需給については、天候の影響を受けることが分かるが、特に、今年の秋以降、好天に恵まれ、秋冬野菜のほとんど品目で安値傾向が続いた。その中で、たまねぎは年1作であり、大産地である北海道の農家は大きなダメージを受けたのではないか。このようなことがないよう、計画的な生産体制を構築する必要がある。
- 出荷調整が行われたとの報告があったが、その中で畑に廃棄し、国から農家に対して交付金を支払うということに対しては、現在、フードロスの問題などもあり消費者には抵抗があると思う。例えば、福祉施設等の給食向けに供給されると施設側も助かると思う。産地からの輸送コスト問題もあって簡単ではないと思うが、今後の問題として考えてほしい。
- 5～6年前に長野県内の畑で、夏はくさいの産地廃棄が行われたことがあった。その際、生産者団体と協力して、夏はくさいを東京都内の学校給食において、食材をはくさいに切り替えて頂き、かつ、生徒にもはくさいを持って帰ってもらった。その中にはくさいのメニュー提案などを添えた。栄養士の協力と、理解を得て行うことができたものであるが、保護者からは、夏場の食べ方を知らなかったという声が聞かれた。野菜の食べ方やメニュー提案が必要ではないか。
- 野菜の消費量が伸び悩んでおり、消費拡大の方策についても見直すことが必要ではないか。例えば、事業所給食等の業者の取組みについても調査することが必要ではないか。
- 高齢者も食べきりの加工品に対するニーズが高まっており、加えて、味についても要求水準が高くなっている。この点については、分析しても良いのではないか。

【参考】配布資料等については、ホームページで公表します。

(問い合わせ先)

独立行政法人農畜産業振興機構

野菜需給部 需給推進課

前川、鶴狩、濱名、小林

電話番号：03-3583-9449

平成 28 年産春野菜の需給・価格の見通しについて

(別紙)

1 春キャベツ (4~6月)

生産地の動向等

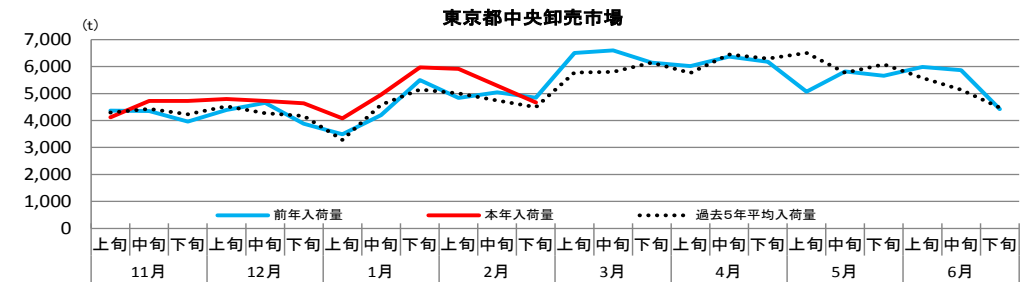
- ① 主な産地 (千葉、神奈川、愛知) の動向
- ・ 作付面積: 神奈川及び愛知(101%)、千葉(100%) *前年実績比 (以下同)
 - ・ 生育状況: (千葉) 「春系」は、暖冬の影響により生育が前進傾向で推移し、「初夏」は、概ね順調に推移し、4月上旬まで定植が続く。
(神奈川) 暖冬及び適度な降雨により、生育が前進。
(愛知) 暖冬の影響で、「冬系」の出荷が早めに終了し、「春系」、「初夏」は生育が前進傾向で推移。
 - ・ 出荷開始: (千葉) 「春系」は3月下旬、「初夏」は5月下旬。
(神奈川) 「春系」は3月下旬。
(愛知) 「冬系」は2月中旬、「春系」は2月下旬、「初夏」は5月上旬。

- ② この先1ヶ月の気象予報
- ・ 東日本太平洋側では、平均気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと見込まれる。

野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

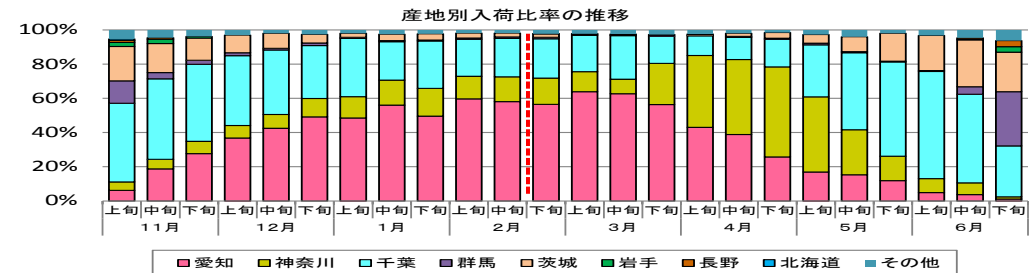
- ① 供給見通し
- ・ 出荷量については、4月は愛知産の前月までの前進出荷の影響などもあり前年を下回り、5月は神奈川産が適度な降雨により順調な出荷が見込まれるため、前進出荷で少なかった前年を上回り、6月は前年並みの見込み。
- ② 需給・価格見通し
- ・ 価格については、5月は降雨等で入荷が少なく高騰した前年を下回り、4月及び6月は干ばつ等の影響で平年に比べて高かった前年並みと見込まれる。
 - ・ 加工・業務用は、愛知産の残量が少なくなることが予想されるため、4月以降用に価格が安かった秋冬キャベツを貯蔵している業者もある。また、昨年9月の茨城県における大雨の影響で国産が減少すると予想し、早めに中国産を手配した業者が、国産の価格安もあり多くの在庫をかかえたことから、現在、中国産を手当てする動きは鈍い。

入荷量の推移等

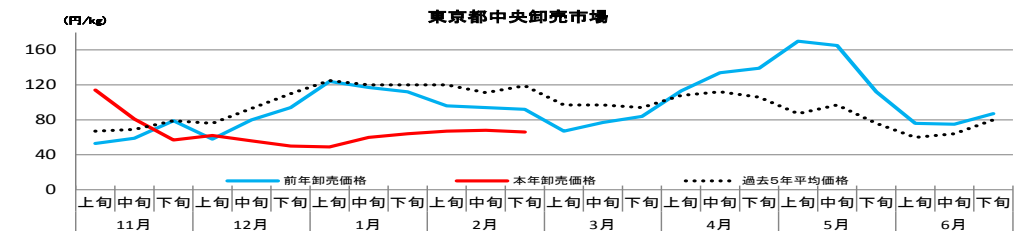


《今後の見通し》

	4月	5月	6月
前年比	→	→	→



価格の推移等



《今後の見通し》

	4月	5月	6月
前年比	→	→	→

2 春だいこん（4～6月）

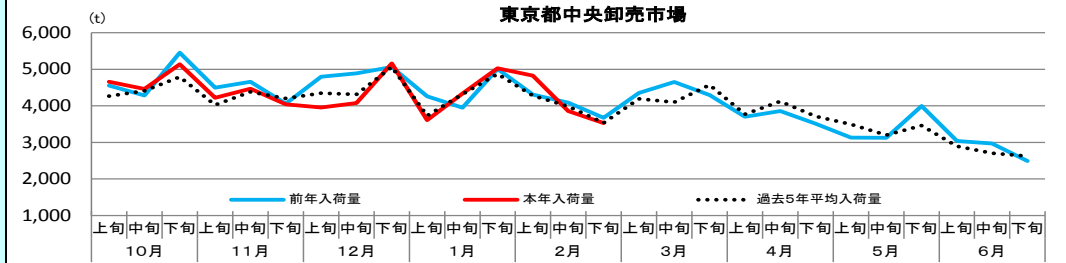
生産地の動向等

- ① 主な産地（北海道、千葉、長崎）の動向
 - ・ 作付面積：長崎(102%)、千葉(100%)、北海道(99%)
 - ・ 生育状況：(北海道) 定植は順調に進み、生育も順調に推移。
(千葉) 降雨の影響で、播種時期にバラつきが見られるが、生育は順調に推移。
(長崎) 暖冬の影響で、病害虫の発生が心配されたが、大きな影響はなく生育は順調に推移。
 - ・ 出荷開始：(北海道) 「春系ハウス」が5月上旬、「春系トンネル」が5月下旬。
(千葉及び長崎) 3月上旬。
- ② この先1ヶ月の気象予報
 - ・ 平均気温：全国的に高いと見込まれる。
 - ・ 降水量：北日本太平洋側では平年並みが多く、東・西日本太平洋側では多いと見込まれる。
 - ・ 日照時間：北・西日本太平洋側では平年並みか少なく、東日本太平洋側では少ないと見込まれる。

野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

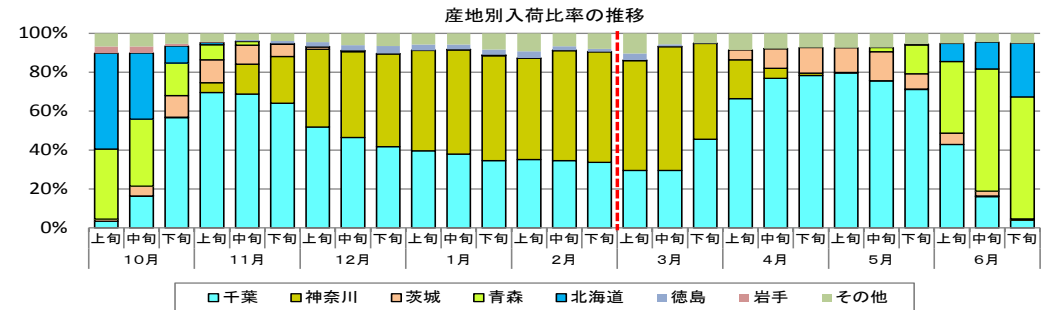
- ① 供給見通し
 - ・ 出荷量については、4月及び5月は、主産地の生育が順調なことから、降雨等の影響で少なめであった前年を上回り、6月は千葉産や長崎産が終盤を迎えた中で、北海道産の生育が順調であることから前年並みの見込み。
- ② 需給・価格見通し
 - ・ 価格は、主産地において、概ね潤沢な出荷が見込まれることから、4月及び5月は降雨等の影響で高かった前年を下回る見込み。6月は、長崎産が前年の半分程度となるものの、北海道産が順調な出荷が見込まれることから、前年並みの見込み。
 - ・ 加工・業務用は、昨年、千葉産の生産量が少なかったこともあり、契約数量を増加させる業者や、契約産地に早めの定植をお願いして数量を確保する業者が見られる。

入荷量の推移等

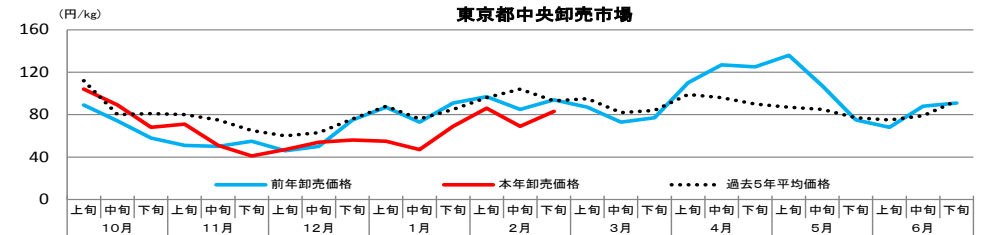


《今後の見通し》

	4月	5月	6月
前年比	→	→	→



価格の推移等



《今後の見通し》

	4月	5月	6月
前年比	→	→	→

3 たまねぎ（4～6月）

生産地の動向等

① 主な産地（北海道、佐賀、兵庫）の動向

- ・ 作付面積：北海道及び兵庫(100%)、佐賀(95%)
- ・ 生育状況：北海道、佐賀及び兵庫ともに生育が順調に推移。
- ・ 出荷開始：（北海道）「極早生種」が8月上旬、「早生種」が8月下旬、「中生種及び晩生種」が11月上旬。
（佐賀）「極早生種」が3月中旬、「早生種（マルチ）」が4月中下旬、「早生種（露地）」が5月上中旬、「中晩生種」が5月中下旬。
（兵庫）「極早生種」が5月上旬、「早生種」が5月上旬、「中生種」が5月下旬、「晩生種」が6月上旬。

② この先1ヶ月の気象予報

- ・ 平均気温：北・西日本太平洋側では高いと見込まれる。
- ・ 降水量：北日本太平洋側では平年並みか多く、西日本太平洋側では多いと見込まれる。
- ・ 日照時間：北・西日本太平洋側では平年並みか少ないと見込まれる。

野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

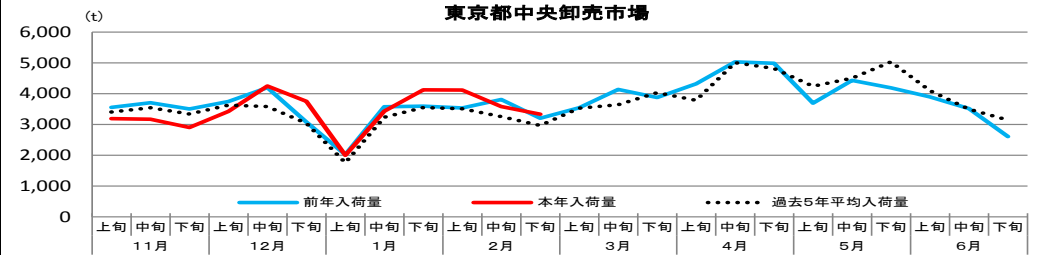
① 供給見通し

- ・ 出荷量については、4月は北海道産が大玉を中心に計画的な出荷が見込まれ、6月は佐賀産を中心に順調な出荷が見込まれることから、前年を上回る見込み。5月は前年並みの見込み。

② 需給・価格見通し

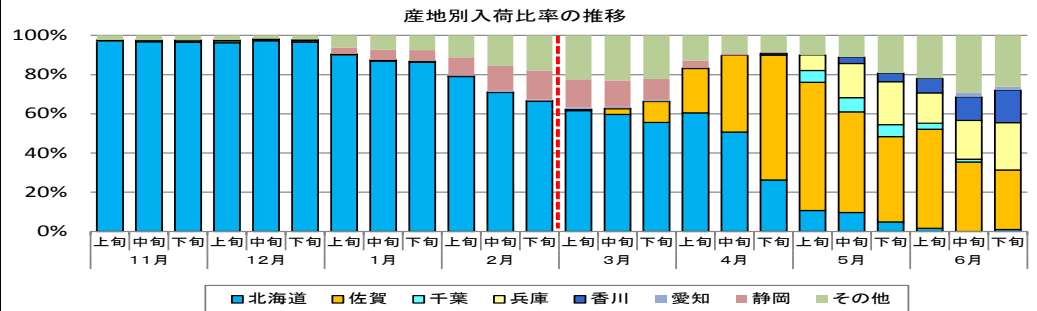
- ・ 価格は、期間を通して、佐賀産の不作による入荷量の減少から高かった前年を下回る見込み。
- ・ 加工・業務用は、中国の一部地域で寒波があり貯蔵物が少ないなか、中国産への韓国からの引き合いも強く、輸入価格が高くなることが考えられる。
- ・ 国内相場が高くなると、中国産に対する需要が高くなることが考えられるが、自らむき玉に加工できる業者の中には、単価の安いニュージーランド産に切り替える動きが見られる。しかし、加工できない業者は、従来通り中国産で対応するものと考えられる。

入荷量の推移等

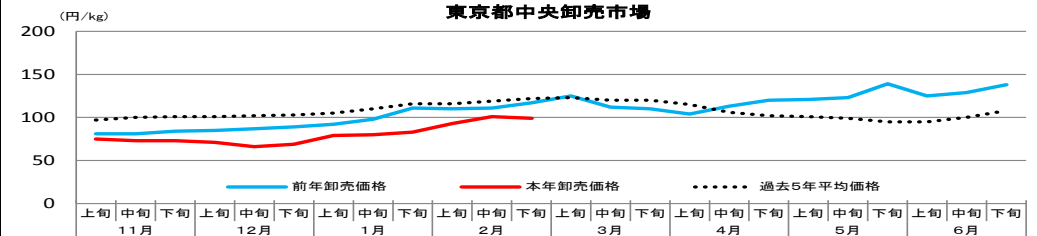


《今後の見通し》

	4月	5月	6月
前年比	↗	→	↗



価格の推移等



《今後の見通し》

	4月	5月	6月
前年比	↘	↘	↘

4 春夏にんじん（4～7月）

生産地の動向等

- ① 主な産地（北海道、青森、千葉、徳島、長崎）の動向

 - ・ 作付面積：長崎(100%)、北海道(99%)、青森及び千葉(98%)、徳島(94%)
 - ・ 生育状況：（北海道）生育が順調に推移。
（青森）雪解けも早く、生育も順調。
（千葉）気温が高く、生育は順調。
（徳島）1月下旬の寒波の影響で、一時生育が停滞したが回復。
（長崎）降雪があったものの、被害もなく順調に生育。
 - ・ 出荷開始：（北海道）「春まきトンネル」が6月下旬、「春まき」が7月中旬。
（青森）6月下旬。
（千葉）4月下旬。
（徳島）「トンネル」が3月上旬。
（長崎）3月下旬。
- ② この先1ヶ月の気象予報

 - ・ 平均気温：全国的に高いと見込まれる。
 - ・ 降水量：北日本太平洋側では平年並みか多く、東・西日本太平洋側では多いと見込まれる。
 - ・ 日照時間：北・西日本太平洋側では平年並みか少なく、東日本太平洋側では少ないと見込まれる。

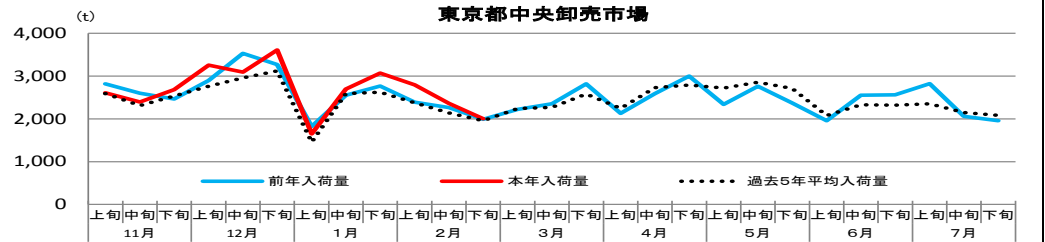
野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

- ① 供給見通し

 - ・ 出荷量については、4月は徳島産の作付の減少もあり前年を下回る見込み。5月及び6月は、主産地において暖冬の影響もあり、生育も順調なことから、前年を上回って推移する見込み。7月は前年並みの見込み。
- ② 需給・価格見通し

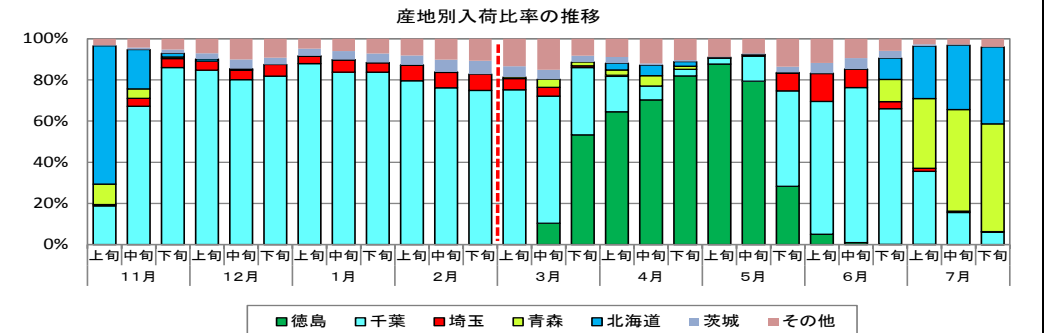
 - ・ 価格については、4月は前年を上回る見込み。5月及び6月は、順調な入荷が見込まれ、天候不順から小振りとなり高かった前年を下回る見込み。7月は前年並みの見込み。
 - ・ 加工・業務用は、中国産が曇天・長雨等の影響により生育が悪いことに加え、国内向けや東南アジアからの引き合いが強いことから、輸入価格が高値となっている。
 - ・ 現在、国産の価格が安いことから、加工・業務用も国産で対応しているが、今後は価格が上がる見込みのため、中国産に切り替える業者も出てくる。

入荷量の推移等

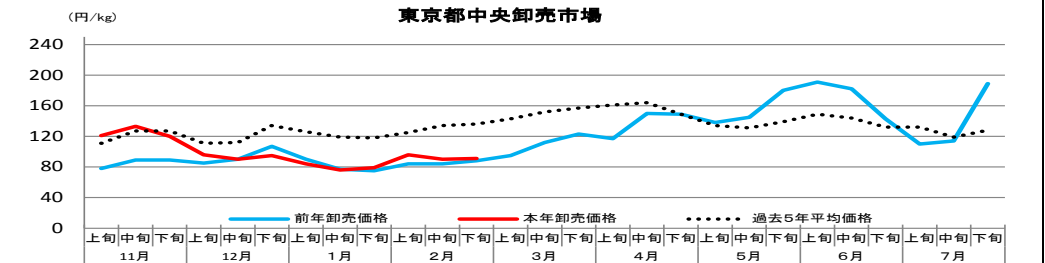


《今後の見通し》

	4月	5月	6月	7月
前年比	→	↗	↗	→



価格の推移等



《今後の見通し》

	4月	5月	6月	7月
前年比	↗	→	↘	→

5 春はくさい（4～6月）

生産地の動向等

① 主な産地（茨城、長野）の動向

- ・ 作付面積：茨城(120%)、長野(98%)
- ・ 生育状況：（茨城）気温が高く生育が前進傾向。
（長野）前年より早い生育。
- ・ 出荷開始：（茨城）「早生種」が3月中旬、「中生種」が4月中旬、「晩生種」が5月下旬。
（長野）5月下旬。

② この先1ヶ月の気象予報

- ・ 東日本太平洋側では、平均気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと見込まれる。

野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

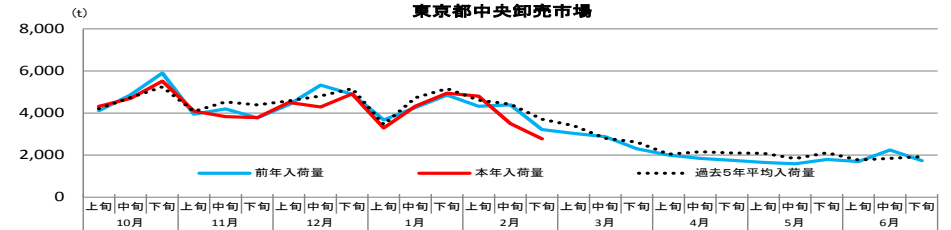
① 供給見通し

- ・ 出荷量については、4月及び5月は、茨城産が生育も順調で、作付面積も増加したことから、降雨、低温、日照不足の影響により少なかった前年を上回る見込み。6月は、長野産が前年より早い生育となるなど順調な生育により前年を上回る見込み。

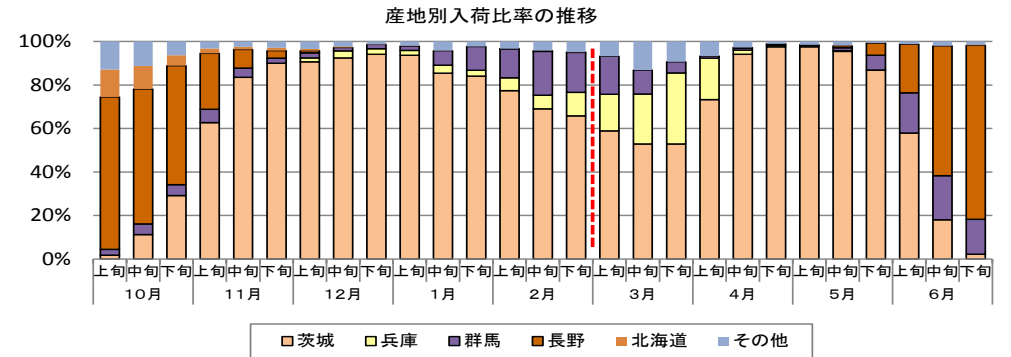
② 需給・価格見通し

- ・ 価格は、茨城産の作付面積の増加に加えて、長野産の出荷の前進などにより、主産地の入荷が順調であると見込まれることから、期間を通して高かった前年を下回る見込み。
- ・ 加工・業務用については、秋冬作は品質劣化が著しく、貯蔵できる数量が少ないことから、契約産地に早めの定植をお願いして数量を確保する業者や市場から購入する業者など、様々な対応がとられている。4月中旬までは市場価格が上がる可能性もある。

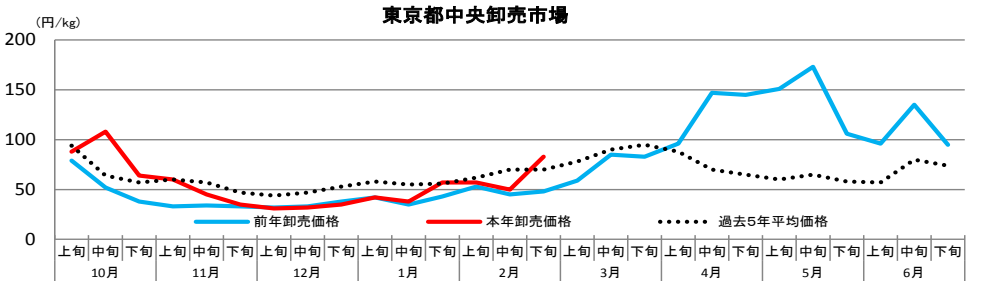
入荷量の推移等



《今後の見通し》			
	4月	5月	6月
前年比	↗	↗	↗



価格の推移等



《今後の見通し》			
	4月	5月	6月
前年比	↗	↗	↗

6 春レタス（4～5月）

生産地の動向等

① 主な産地（茨城、長野、兵庫）の動向

- ・ 作付面積：茨城(98%)、長野及び兵庫(97%)
- ・ 生育状況：（茨城）気温が高いことから生育が前進傾向。
（長野）順調に生育。
（兵庫）暖冬の影響により生育が前進傾向。
- ・ 出荷開始：（茨城）4月上旬及び5月上旬。
（長野）4月中旬。
（兵庫）3月中旬及び5月上旬。

② この先1ヶ月の気象予報

- ・ 平均気温：東・西日本太平洋側では、高いと見込まれる。
- ・ 降水量：東・西日本太平洋側では、多いと見込まれる。
- ・ 日照時間：東日本太平洋側では少なく、西日本太平洋側では平年並みか少ないと見込まれる。

野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

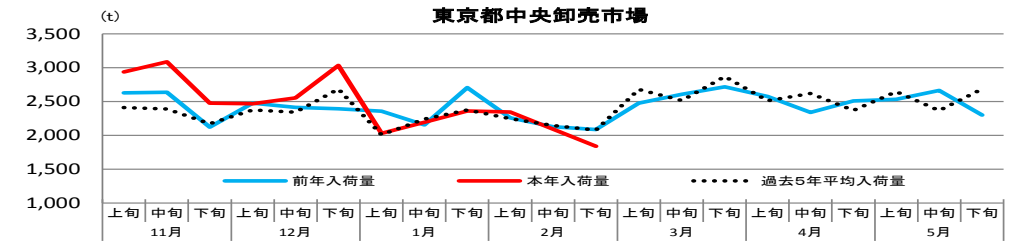
① 供給見通し

- ・ 出荷量については、4月は主産地の面積が減少したものの、生育が順調であったことから前年並みの見込み。5月は、長野産の生育が順調であることから前年並みの見込み。

② 需給・価格見通し

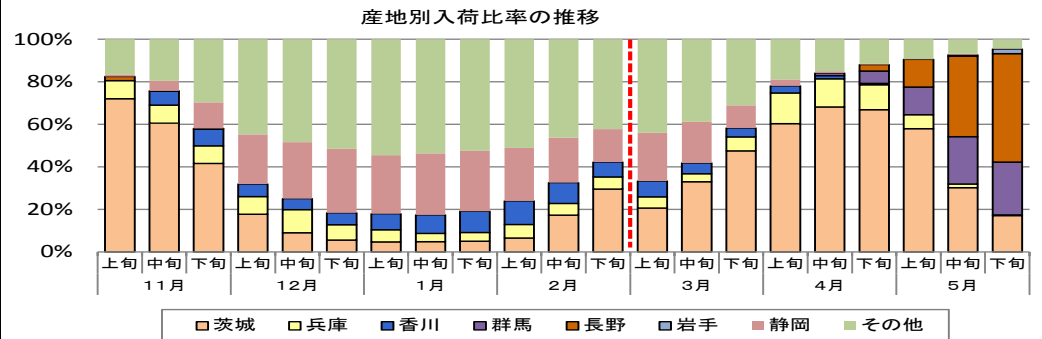
- ・ 価格については、4月は一時的に高騰した前年を下回り、5月は前年並みと見込まれる。期間を通じて、平年を上回る見込み。

入荷量の推移等

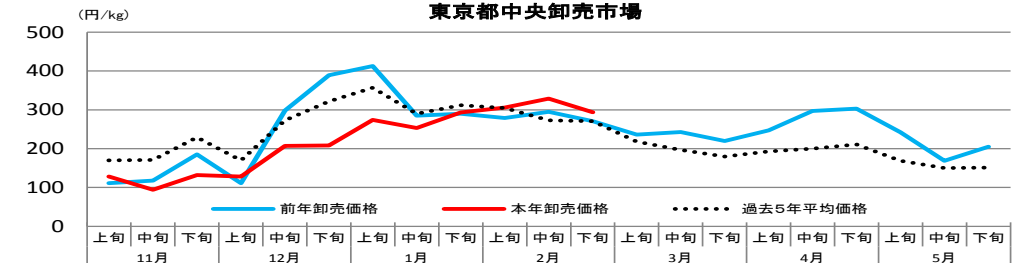


《今後の見通し》

	4月	5月
前年比	→	→



価格の推移等



《今後の見通し》

	4月	5月
前年比	↘	→

その他、春野菜全体の消費の動向等

- ① 春先以降の消費を左右する要因として注目しているものについて
 - ・ 株価が高騰したときには、消費が活発になっていたため、今後の株価の動向によっては、野菜の消費量の減退も考えられる。
 - ・ 暖冬による前進出荷の影響で、今年の端境期は前年よりも大きくなると考えている。このため、今後の気象変動等を注視する必要がある。
- ② 主要6品目以外の野菜で、注目している野菜について
 - ・ 地場野菜、近郊野菜及び直売所で販売されている野菜など、生産者の顔が見える農産物が好評なので、販売を増やしていく考えである。
 - ・ 茹でてドレッシングをかけるだけで、手軽に食べられるプチベールは好評を得た。
 - ・ 生食用でもドレッシング用でも使える食材としての大葉に注目している。
 - ・ スーパーなどのバイキング販売が好評で、ミニトマトが足りなくなってきた。
 - ・ 居酒屋や外食では、ハーブ系ミントや赤水菜などの注文が増えてきている。
 - ・ パクチーは、専門店があるなどコンスタントな販売商品として考えられる。
 - ・ 年末のテレビで放映されて好評であった、ブロッコリースーパースプラウトに注目している。
- ③ ドライバー不足、ガソリン価格の変動及びコールドチェーン対応など野菜の物流をとりまく環境変化の影響と対応について
 - ・ ストックポイントとしての物流センターを建設して産地から直接納入する割合を高め、物流費の削減やトラックドライバー不足への対応を行っていく考えである。
 - ・ ドライバー不足の問題として、首都圏に運ばれてきた品物を各家庭に届けるためのドライバーも不足している。この他にも、ピッキングセンターの労働者も不足している。この対応として、高齢者や、女性の活用も考えている。また、将来のことを考え若手の育成も考えている。
 - ・ ドライバー不足は依然あるものの、原油価格の値下がりもあり、表立った運賃の値上げ要請は行われていないようである。
- ④ 消費行動における震災や原発事故の影響について
 - ・ 東北の農産物も販売しているが、消費者の中には購入を控える者もみられる。このため西日本の農産物も販売しているが、特にアピールは行わず消費者の選択に任せている。
 - ・ 学校や保育園にも届けているが、福島県産を敬遠する声は聞かれなくなった。
 - ・ 福島県産のアスパラは美味しいと評判で、今後は販売の拡大を考えている。
- ⑤ その他
 - ・ キャベツ等の貯蔵技術の実証試験を進めている。ある一定の条件の下では夏場では30日、冬場では40日は保存が可能で、レタスであれば夏場では20日、冬場では30日は可能であるとの試験結果を得ることができ、貯蔵臭もほとんどなかった。